

「妙田下水処理場No. 1最終沈殿池設備更新工事」に関する意見募集結果

	意見の概要	本市の考え方
1	<p>タイプをSUSチェーン搔寄機から浮上型搔寄機に変更する事で、定期補修費や電気代が年間約155万円減額になるのは分かりますが、タイプの違いによる初期投資額や耐用年数の比較も説明資料に折り込むべきだと思います。</p>	<p>説明資料には記載していませんでしたが、既存のSUSチェーン搔寄機の初期投資額は182,000千円、標準耐用年数は15年であるのに対し、今回変更予定の浮上型搔寄機の初期投資額は184,000千円、標準耐用年数は15年と試算しています。比較すると浮上式搔寄機にすることで、初期投資額は年間13万円増額になりますが、定期補修費や電気代を含め総合的に試算すると年間142万円(155万円-13万円)減額となります。</p> <p>さらに浮上式搔寄機にすることで機器が軽量になり、機器故障発生数の低下、耐震性の向上が見込めるため浮上式搔寄機を採用しました。</p>
2	<p>最終沈殿池に関する機能についての説明が書かれていますが、耐用年数を超えて使った場合のリスクとその対応方法をどのように考えて今まで使用されていたのでしょうか？</p>	<p>令和3年3月改定の「延岡市下水道事業経営戦略」でもお示ししておりますように、最終沈殿池設備等の機械・電気設備については標準耐用年数(15年)の1.7倍を更新時期の目安とし、最終沈殿池設備の更新時期の目安は26年と設定しています。</p> <p>それに対し、今回の最終沈殿池設備は設置から42年が経過していますが、同様の機能を有した設備が複数系列あること等から、これまでは部分的な修繕等で機能停止のリスクを回避してまいりました。</p> <p>このように、目標耐用年数を超過した設備につきましては、各設備における実際の劣化状況や重要度なども踏まえ、点検等の維持管理を行いながら機能停止などのリスク回避に努め、計画的に更新を進めてまいりたいと考えております。</p>
3	<p>パブリックコメントを行う目的は市民の行政への参加意識の醸成もあると思います。 できたら公開される資料はもう少し丁寧な資料(詳細は不要。)をお願いします。</p>	<p>市民の皆様に分かりやすい説明に努めたところですが、下水処理場内の設備更新に関することであり、専門的な表現等が多くなり、結果的に市民の皆様が分かりにくい資料になってしまいました。今後同様なパブリックコメントを実施させて頂く際には、より分かりやすく丁寧な資料の作成に努めてまいります。</p>